



発行：
公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会
会長 東 和沖
鹿児島市鴨池新町1-7県社会福祉センター内
Tel 099(213)4055
Fax 099(213)4051

URL:<https://kagocsw.jp> E-mail:jacsw@po.minc.ne.jp



会長挨拶

公益社団法人 鹿児島県社会福祉士会
会長 東 和沖

みなさん、お疲れ様です。東和沖です。

先日の総会で理事に再選され、会長に互選されました。ありがとうございます。いずれも2期目です。

2年前の役員選では、役員総入替えに近い状況でした。今回は、監事退任の渕脇隆一氏と理事勇退の久保誠会員を除いて全員再任され、新たに森元美隆理事、行勝代理事、米倉治美理事、辻健一監事が加わりました。アフターコロナの本会新方向決定に取り組めるメンバーが選ばれたと期待しています。副会長は森元理事と有木保幸理事のお二人です。各地区支部も新体制となり、オンラインでの研修会開催等新しい方法への試みを始めています。また、前会長の久留須直也会員が日本社会福祉士会の実践研究推進プロジェクトチームに参加しています。

さて、私ですが、「さくらじま」新年号挨拶では新型コロナウイルスの話ばかりでした。会議・研修会等のオンライン開催とか、会活動のための知恵結集とか。人と人の繋がりを考えると、今でもコロナ禍の終焉を待ち望んでいます。

そして、「さくらじま」ですが、社会を反映して話題が低迷しているのか、原稿の「密」を避けているのか、原稿が集まらず、発行回数も減っています。この状況に危機感を持った広報委員会と事務局は、情報発信等の改善に取り組んでいます。情報が全てではありませんが、コロナ禍の中、それぞれの経験を生かして会が新たな進歩を実現することが望れます。多くの会員の意見やアイデアを紹介し、会員が良い交流を行い、良いものを取り入れていくことで、会は本当の発展に向かうと考えます。今後、様々な取り組みにトライしていくので、その時にはよろしくお願ひいたします。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

理事就任のご挨拶

大隅地区支部 副会長 森元 美隆

この度大隅地区の理事に選任されたばかりか、まさかの副会長にも選任され、「晴天の霹靂」、「寝耳に水」状態です。

社会福祉士に合格し、社会福祉士と名乗るようになってから、20年が経過しました。この20年間社会福祉士として、どのようなことをしてきたか振り返ってみたところ、胸を張って堂々と言える中身はあまりなかったなあと感じているところです。

社会福祉士会の活動で印象に残っていることは、九州地区の大会で夜の懇親会の司会進行を担当したことや、独立型の社会福祉士になるための有志の会に参加したことなどがあります。また大隅地区支部では長年事務局を担当したことでも、地域福祉の活動に繋がっていたと思います。

現在は鹿屋市でグループホームや小規模多機能ホームなど運営し、高齢者福祉に貢献しているつもりです。

今後は広く鹿児島県あるいは全国の社会福祉士会に少しでも貢献できるよう、頑張らせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

南薩地区 副会長 有木 保幸

先般の役員改選で副会長の役をお引き受けすることとなりました有木保幸です。令和元年6月の役員改選で副会長となり、今回で2期目となります。よろしくお願ひいたします。

社会福祉士は専門的知識や技術をもって、福祉のニーズを持つ方に対して相談、助言、他職種との連携・調整等の支援を実践していく者の国家資格です。活動の分野も高齢者や障害者、児童分野等と多岐に渡っています。

しかしながら、近年ではそれらの背景にある家庭や地域の問題がクローズアップされており、問題の原因が一つの分野に限らず、様々な要因が複雑に絡んでいることが多く、そこに目を向ける必要性が高まってきた。

それゆえに、各分野で活動する会員の皆様の情報や知識の交換の場として、あるいは社会福祉士として更なる資質向上のための組織として、本会が少しでもお役にたてるよう努めてまいりますので、会員の皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。

北薩地区支部 山口 健一郎

私の知り合いで社会福祉士を目指している方からお聞きしたことで、動機は「専門職としての知識、技術を活かして支援する側も支援を受ける側も尊重される支援がしたいと思ったから」と話されていました。またある方は「病院での仕事の中で患者の困り事に対し、生活がより良いものになる様に提案したいと思い資格取得を目指しています」と言う方もいらした。

目指すきっかけは人それぞれであり、それでいいと思います。私たちは人とのつながりの中で支援をしていることが大概です。社会福祉士を取得したからと言って直ぐに一人前に動けるものではありません。コロナ過であるなしに関わらず社会全体は忙しく、じっくり教える体制も乏しい所も多いのではないか?どんな風にしたらいいのだろう?と悩んでいる方もいると個人的には思う処です。そんな中、当会での研修や各委員会への参加は、悩みを聞いてもらえる場ともなるのではないか?と思います。

私の場合は理事就任前には北薩地区支部の会計などをしていました。ここでも人づくりが出来たと思っています。収支的なことで心配をされる方もいらっしゃる様ですが、会員相互の関係や、研修会などに参加することで、会が盛り立てられて、ひいてはそれが安定した運営にもつながるのではないか?と思う処です。鹿児島県地域生活定着支援センターや児童養護施設退所者等自立支援貸付事業などの仕事は当会への評価として委託されたものだと個人的には考えています。

事務局に電話することがあります。遅い時間に電話することもありますが、その時も大概まだ残って仕事をされていることが多いです。会の運営を行うにあたり、縁の下の力持ちであり、感謝する処です。

こつこつと活動を実直に行なうことが将来の当会の繁栄につながると考えています。

2期目になりますが、その一助になれれば幸いと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。



理事就任のご挨拶

鹿児島地区支部 米倉 治美

先日の総会にて地区支部推薦理事としてご承認いただきました、鹿児島地区支部の米倉治美と申します。

私は社会福祉士取得と同時に社会福祉士会に入会し、今年で18年目になります。その間、妊娠、出産、育児を経験し、働く時期も働けない時期も、社会福祉士会の会員として皆様とともに学びながら、支えていただきながら、過ごして参りました。

人生にはいろいろな時期があり、思うように動けないときもあります。そんな時に一人の社会福祉士として何ができるのか、その時だからこそできることは何なのかを自らに問い合わせ続けてきました。

「ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける」ものですから、私たち自身の生活経験も、支援に役立つものであると考えています。

お一人お一人の経験が、その人らしいソーシャルワーク実践につながるような学びの機会が得られるような、横のつながりが得られるような社会福祉士会であるよう、お手伝いをしていけたらと考えています。

また、スクールソーシャルワーカーとして活動してきた経験を活かし、社会福祉士として子どもと家庭への支援についてともに考えていくつながりを作っていくと考えています。

理事1年目で何ができるのか、手探りの状況です。少しでも会員の皆様のお役に立てるよう、ご協力・ご助言をどうぞよろしくお願ひいたします。

霧島姶良地区支部 福田 竜光

この度、霧島・姶良地区支部から推薦いただき地区理事を承りました福田竜光と申します。

1期目は、世間と同様に新型コロナウイルスに翻弄された2年間でした。健康に大きな影響をもたらすことになったこのウイルスは、多くの人の健康や財産を脅かし、日常生活、社会全体に大きな影響を及ぼすことで、生活の様式のみならず、社会の様式にも大きな影響を与えました。

そのような中でも、人は、社会はコロナ禍における新たな課題・肥大した課題に立ち向かい、平穏な日常を取り戻すべく切磋琢磨しています。

日頃から私たち鹿児島県社会福祉士会は、鹿児島の医療・福祉を始め、様々な事業形態の中で活躍し福祉の増進に取り組んでいます。コロナ禍によって

失われた安寧を取り戻すため、今後は更に活動の促進と連携を持って、新しい生活様式・社会の様式を考え、社会福祉が停滞すること無く重層的・包括的な支援・援助が増進していくためのより大きな役割を担うことになっていくことでしょう。

今回、2期目を務めさせていただくことになり、改めて身を引き締めて臨ませていただきたいと考えております。

田中 正信

理事に就任した田中と申します。

今期で3期目となります。1期、2期と副会長を務めましたが、今期は副会長を退き、新副会長にバトンを託しました。

理事には、それぞれ担当する地区支部や委員会があります。私は、研修委員会と総務委員会の担当です。役員改選で各地区支部からの推薦を受けた理事が、当該地区支部を担当することとなっています。私は、地区支部からの推薦を受けたのではなく、立候補して理事になりましたので、担当する地区支部はないということになりますが、必要に応じて各支部の担当理事と調整を行うなどして地区支部活動にも協力していきたいと思っています。総務委員会については、なかなか活動に参加できずに申し訳なく思っています。

研修委員会では、2020年度当初は、コロナ禍の中、基礎研修の扱いについて、「開催しない」ことも視野に入れ、議論しました。様々な意見が出る中、鹿児島程度の規模（受講生30名程度）であれば、ZOOMでのグループ討議の機能を使えば開催が可能だと判断し、開催に踏み切りました。初めてのことではありましたが、研修委員会委員（それ以外にも協力してくださった皆様）、講師、そして事務局が一丸となって運営しました。九州でも、やむを得ず中止とした県士会がほとんどの中、開催できたことは、会員の皆様にとっても有益であったと考えています。今年度もZOOMを使いながら、基礎研修を行っていくこととしています。

さて、現在、社会福祉士会が抱えている問題はたくさんあります。新規会員を増やすことは、全国的に見ても大きな問題です。地区支部活動や、委員会活動で、会員に「有益な会だ」と思っていただけるよう、施策を打っていく必要があると考えます。個別具体的に議論を進めていかねばならないことも山積されています。会員の皆様からのご意見を聞くこと多くなると思います。どうかご協力くださいますようお願いします。以上で、理事就任の挨拶とさせていただきます。

理事就任のご挨拶

大島地区支部 行 勝代

大島地区支部から3月に地区支部推薦理事として候補者となり5月30日の総会において会員理事となりました 行 勝代（ゆき かつよ）と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

総会当日は、Zoomでの参加でしたが、役員の皆様並びに事務局の方々の事前準備のお陰で特に不都合なこともなく会場の皆様と同じように総会に参加できましたことを感謝申し上げます。

さて、これまでの参加の状況を振り返りますと奄美からでは船か飛行機を利用しての参加でしたので、今回のように離島にいてもリアルタイムで情報共有ができたことはコロナ禍が社会を大きく変えてくれたと実感しております。

社会福祉士会会員の皆様は、夫々、職場も立場も異なりますが、一人一人の培ってきた経験は大事な財産だと思います。これからも専門性を高めつつ会員を増やす活動を展開し多職種連携により更なる資質の向上を目指していけたらと考えます。

微力ながら支部活動・会員活動に取り組んでいく所存です。今後ともご指導、ご協力をお願い申し上げます。

串木野・日置地区 新川 光郎

新型コロナウイルス感染拡大が原因か、高齢者や障害者をはじめ社会的に弱い立場にある方々の新たな福祉課題や生活課題が顕在化とともに、社会から追い詰められた方による凶悪な事件も多発しています。

それらの課題解決に向けて、社会福祉士や社会福祉士会に対する期待は、今後ますます高まり、組織として、いつ、どのようなアクションを起こすかが重要な時期ではないでしょうか。

コロナ禍やコロナ後における社会全体の変化を見据えた時代に合う事業転換。これが社会福祉士会に求められる一番の課題だと考えます。

そのためには、「コロナ禍でも学べる場の提供」、「社会に組織をアピールできる活動」、そして会員目線では「会費に見合ったメリットを感じられる組織」につながる活動が必要ではないでしょうか。

会員の皆様、本会は幅広い年齢層で、他職種の方もいらっしゃいます。自分とは違った意見や話を聞くことができます。どのような団体も入会し

ただけでは受けられる恩恵は少ないでしょう。

コロナ後は、主体的な参加で会を盛り上げ、メリットを感じながら、社会福祉士の地位向上を目指し、一緒に活動していきましょう。

ホームレスの実態に関する全国概数調査に参加して

居宅支援事業所みんなのケアマネ
有村 繁樹

令和2年度ホームレスの実態に関する全国概数調査に初めて参加し、経験して感じた事を述べたいと思う。

令和3年1月16日土曜日の夜、グループに分かれてホームレスの目視調査が実施された。私は女性会員の方とペアを組み鹿児島市産業道路近辺を目視調査した。調査場所は人通りの少ない暗闇の場所や公園等、夜間は人がいないような場所をライトで照らしながら歩いた。我々の調査場所ではホームレスの方を目視する事は無かった。ペアを組んでいた女性会員の方とホームレスについてお互いの意見を話しながら歩いた。ホームレスはどこの都市や地域にでもいて、NPO法人やボランティア団体、社会福祉協議会等が炊き出しや寝る場所の提供、生活保護に繋げているのだろうという漠然としたイメージしかなかった。テレビや新聞でその活動をニュースで見る程度である。

今回、ホームレスの実態に関する全国概数調査に参加した事で、この調査の目的や根拠となる方法を調べてみたいという意識になった。ホームレスの実態に関する全国調査は、全国すべての市区町村において「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」に規定するホームレスを対象とする調査で1年ごとに実施されている事を初めて認識した。ネットで年度毎の実態調査数を確認する事が出来る。

世間はネット社会や価値観の多様性、AIの技術発展等により便利になってきた。その反面、現代社会において生きづらい人や新たな課題も発生し、現在ホームレス生活をしている人は個人的な問題要因でホームレスになった人もいれば、現代社会が要因でホームレスになった人もいる。ホームレスをゼロにするのは不可能に近いが、ホームレスになった人を自立支援する事は無限の可能性があると気づき、これからもホームレスの実態に関する全国概数調査に参加して自分なりに貢献していきたいと思う。